

## 嗅覚検査について

### ● 嗅覚の役割

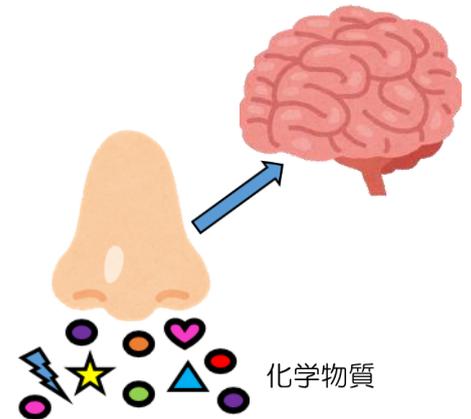
嗅覚とは、においを感じ取る感覚であり、人間の五感の一つです。嗅覚が機能していると、食物の腐敗や煙・ガス漏れといった危険から身を守ることができます。他にも、部屋を花などお気に入りのにおいにして心身を癒す、食べ物をおいしくいただくなど、生活を豊かにするためにさまざまなにおいの力が使われています。



### ● においを感じるしくみ

鼻の奥には、「嗅上皮」と言われる部分があり、ここにある「嗅細胞」は外から入ってきた化学物質を読み取り、電気信号にして脳に伝達します。脳は、この電気信号を受け取ると、それをにおいとして認識するのです。

動物がにおいとして知覚する分子は数十万あると言われ、これらが様々な組み合わせで混ざり合うことでにおいができるので、においの種類は無数に存在することになります。



### ● 嗅覚障害とは

嗅覚に何らかの異常が起こることを嗅覚障害といいます。においが全く嗅ぎ取れないもの、感じるはずのないにおいを感じてしまうものなど様々です。

嗅覚障害の原因としては、慢性鼻副鼻腔炎やアレルギー性鼻炎によって、においの物質が鼻の嗅細胞まで届かないことによるものや、風邪で嗅細胞が傷つけられ、嗅覚が低下してしまうことによるもの、先天的なもの、脳疾患や外傷によるもの、加齢によるものなど、多くの原因があります。

#### 〈嗅覚障害の原因〉

- 慢性鼻副鼻腔炎
- 風邪のあと
- 加齢
- 脳疾患(パーキンソン病やアルツハイマー型認知症など)
- アレルギー性鼻炎
- 頭部外傷
- 先天性

etc.



## ● 嗅覚の検査

嗅覚障害を診断するために、問診やアンケート、視診、各種画像検査等を行います。以下にそういった検査の一環である、「嗅覚機能検査」についてご紹介したいと思います。

### 1. 基準嗅覚検査

「T&T オルファクトメーター」というキットを用いて検査します。体内診断薬として、保険点数(診療報酬点数)が定められ、嗅覚障害の程度や治療効果判定、労災の補償判定のため、耳鼻いんこう科領域で広く使用されています。

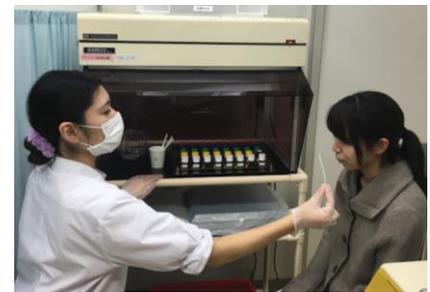
このキットは5種類のおいが、それぞれ7～8段階の濃度で構成されています



〈T&Tオルファクトメーター〉  
第一薬品産業(株)

#### 〈検査手順〉

1. スティック状の紙を5種類のおいの液体それぞれにつけ、においを嗅ぎます。
2. 何かにおいが感じられるか確認します。
3. さらに、どんなにおいか表現します(例えば、花の様なにおい など)。



検査の様子

### 2. 静脈性嗅覚検査(アリナミンテスト)

においのついた薬液を静脈内に注射してから、ニンニク臭(タマネギ臭)を感じるまでの時間(潜伏時間)と、感じてからにおいが消えるまでの時間(持続時間)を測定する方法です。

1の基準嗅覚検査に比べ簡便で、短時間で終わりますが、注射液による血管痛を伴う場合があります。

## ● おわりに

においは、鼻で受け取った化学物質を脳で識別しています。そのため、脳に外傷を受けたときや障害が起きた時にも、嗅覚に異常が発生することがあります。最近では、アルツハイマー型認知症やパーキンソン病などの神経疾患が原因となって嗅覚に障害が出るという研究が進んでいます。

これらの病気の早期発見のためにも、嗅覚が重要視されるようになってきました。嗅覚に異常を感じたら、たかがにおいと軽く考えず、早めに病院を受診してみましょう。



※参考引用：においのお話 第一薬品産業株式会社



「四つ葉のクローバー」は当院のホームページ(インターネット)で公開しています。ご参照ください。

ホームページアドレス <https://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>